

発刊に寄せて

兵庫県知事 井戸敏三



6400名を超える尊い命と私たちのふるさと兵庫に深い傷跡を残した阪神・淡路大震災から10年が経過しました。あの日以来、被災地では、内外から多くの温かいご支援や励ましをいただきながら、成熟社会にふさわしい「創造的復興」をめざして懸命の努力を続けてきました。

10年に及ぶ「創造的復興」。このなかで、何ができ、何ができなかったのか。98名の委員からなる「復興10年委員会」のもと、6分野54テーマにわたり取り組んだ「復興10年総括検証・提言事業」では、「安全・安心なまちづくり」「共生社会の実現」を今後の目標像とする459項目の提言をいただきました。こうした検証結果を踏まえ、残された課題の解決に取り組みつつ、被災地で生まれた新しい仕組みを大きく育てていかなければなりません。

あの震災で、私たちは、人と人とのつながりや地域での支え合いが、安全・安心を支える基本であることを学びました。また、日頃から災害を総合的に捉え、建物の耐震化や地域での自主防災活動など、「減災」の取り組みを進める「災害文化」が生まれてきたことも震災の意義の一つだと言えましょう。こうした経験と教訓を、安全・安心な社会の構築に役立てていくことこそ、内外から多くのご支援をいただいた私たちの責務ではないでしょうか。

「震災を越えて」は、この10年間、防災やボランティア教育、また心のケアなどに、学校がどのように取り組んできたのかを、資料や現場での実践事例などを交えながら取りまとめたものです。その上で、教育分野での「復興10年総括検証・提言事業」の成果を踏まえつつ、今後の防災教育を進める際の新たな指針を示しています。

震災では、地域の防災拠点として学校が大きな役割を果たしました。この教訓から、学校と家庭や地域社会が連携した防災訓練の実施や、児童生徒の安全確保への地域住民の協力など、学校と家庭、地域社会の連携が進んでいます。

震災の経験と教訓を伝えるこの記録誌が、一人でも多くの学校・教育関係の皆様を活用され、「1.17は忘れない」との思いも新たに、地域とともに歩む安全・安心な学校づくりに、そして命を大切にする「豊かな心」と「生きる力」を育む教育の一層の推進につながっていくことを心から願います。

はじめに

兵庫県教育長 武田政義



阪神・淡路大震災から10年の歳月が過ぎました。改めて振り返ってみますと、震災で犠牲になった6,400余名の方々、とりわけ次代を担う子どもや志半ばの教職員のかけがえのない人命が奪われたことへの痛恨の念がこみあげてきますとともに、震災当時、避難所となった学校で学校再開に尽力いただいた教職員や苦難の中をたくましく生き抜いた子どもたちの姿が鮮明によみがえってきます。

私たちは、震災から学んだ教訓を生かすため、助け合いやボランティア精神など「共生」の心を育み、人間としての在り方生き方を考えさせる「新たな防災教育」を推進し、兵庫の教育の創造的復興に取り組んできました。『学校防災マニュアル』を作成し、地域と連携しながら各学校における防災体制の整備充実を図るとともに、『防災教育副読本』等を活用して教育活動全体の中で人間教育の視点に立った取組を進めてきました。さらに、県立舞子高等学校に全国初の環境防災科を設置し、安全・安心の社会づくりに貢献できる人材の育成に取り組んでいます。

一方、震災によって子どもたちが負った心の傷は深く、その支援・ケアは長期にわたっていますが、教育復興担当教員が中心となって学校をあげて児童生徒の心のケア体制づくりに取り組み着実に成果をあげてきました。

また、昨年の新潟県中越地震や台風による風水害など相次ぐ大規模災害に際し、県教育委員会では、平成12年に創設した震災・学校支援チーム（EARTH）を被災地へ派遣し、学校避難所の運営支援や児童生徒の心のケアなど、震災の経験を生かした支援活動を行いました。さらに、多くの教職員や生徒が、ボランティアとして復旧活動に参加するなど、震災を契機として生まれた取組がしっかりと根付いていることを実感しました。

震災10周年にあたり、県教育委員会では、復興10年委員会に教育分科会を設置し、10年間の取組について総括的な検証を行い、その成果と課題を、国連防災世界会議のフォーラムに位置づけて実施した震災10周年教育復興の集いにおいて、国内外に広く発信しました。そうした取組を踏まえて、ここに、兵庫の教育の創造的復興の歩みや各学校等における防災教育の実践をまとめた記録誌『震災を越えて』を刊行する運びとなりました。

平成7年1月17日は、本県の防災教育の原点であるにとどまらず、地域の教育力を活用して子どもたちに「生きる力」を育成する一連の取組の原点であるとの考えのもと、県教育委員会では「県民すべてがかかわる兵庫の教育」をめざした取組を展開しています。震災から10年を経て、「1.17は忘れない」という思いを新たにし、10年間にわたる「新たな防災教育」の成果を踏まえて、今後は「兵庫の防災教育」として「県民すべてがかかわる兵庫の教育」の柱の一つに位置づけて、定着・発展に努めていく所存です。

明日の兵庫を担う子どもたちが、命の大切さや共に生きる心など震災から学んだ教訓を糧として夢を育み、希望あふれる未来に向けて確かな歩みを重ねていくことを願っています。